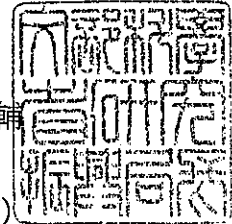


25文科振第342号  
平成25年5月27日

日本学術会議会長  
大西 隆 殿

文部科学省研究振興局長  
吉田 大 輔



国際リニアコライダーに関する審議について（依頼）

国際リニアコライダー（ILC）については、貴会議がとりまとめた「学術の大型施設計画・大規模研究計画－企画・推進策の在り方とマスタープラン策定について－」（平成22年3月）において、「国際リニアコライダーの国際研究拠点の形成」として取り上げられ、その後、平成23年9月のマスタープラン小改訂においても引き続き取り上げられました。

一方、貴会議のマスタープランを受けて、当省の科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術研究の大型プロジェクトに関する作業部会において審議が行われ、「学術研究の大型プロジェクトの推進について（審議のまとめ）」（平成22年10月）及び、その改訂版である「学術研究の大型プロジェクトに関する基本構想－ロードマップ2012－」（平成24年5月）の中で、別紙の評価結果及び課題が示されているところです。

ILCについては、この分野の世界の研究者コミュニティにおいて継続して設計活動等が続けられ、本年夏には設計報告書が完成する見通しとなっています。また、CERNのLHC実験においてヒッグス粒子が発見されるなどの研究面での大きな進展があり、高エネルギー物理学分野の国際的な研究者コミュニティにおいては、LHCの更なる高度化に加えて、ILCの建設への期待が高まってきています。

このような状況の中、我が国の高エネルギー物理学分野の研究者コミュニティにおいては、国際的な設計活動等への参画や技術開発等に加え、これまでのコミュニティにおける調査結果によりILCを建設することが可能と考えられている北上山地及び背振山系の国内2か所について地質調査を実施し、その結果等に基づいて、本年夏にはコミュニティとして建設地点を一本化するための取組を進めています。

一方、3月に提出された米国エネルギー省の高エネルギー物理学に関する諮問委員会の報告書や、5月末に取りまとめられる予定の素粒子物理の欧州戦略において、ILCについては、我が国が誘致する場合には参加を希望すること、参加を検討するために我が国からの具体的な提案を待つ旨などが記載されている又は記載されることとなる見込みです。

ILCの建設及び運営には巨額の経費を要することから、特に我が国でこれを実施する場合には、学術研究全体に大きな影響を与えることも想定されます。つきましては、学術に関する各分野の専門家で構成されている貴会議において、ILCに関する下記の事項及びその他貴会議において必要と判断される事項について、広範な分野の研究者を交えて御審議の上、御意見をくださるようお願い申し上げます。

なお、貴会議においては、現在、次期マスタープランの策定に向けた検討が行われていると承知していますが、本件依頼は、その緊急性に鑑み、可能な限り早期に御回答くださるようお願いいたします。

## 記

- ILC計画における研究の学術的意義、ILC計画の素粒子物理学における位置づけについて
- ILC計画の学術研究全体における位置付けについて
- ILC計画を我が国で実施することの国民及び社会に対する意義について
- ILC計画の実施に向けた準備状況と、建設及び運営に必要な予算及び人的資源の確保等の諸条件について